

おやこ通信

第5号



秋も深まり、食べ物がおいしい季節です。おいしく食べるためにも歯のお手入れは欠かせませんね。ところで、お子さんの仕上げ磨きをしているときに「あれ？」と思うことはありませんか？口の中の病気は虫歯だけではありません。こんな症状があったら、歯科（口腔外科）にご相談ください。

<粘液のう胞>

唇・舌・頬の粘膜にできる丸くてやわらかいこぶです。粘膜を噛んだり、歯の先端が当たることを繰り返しているうちにできてきます。かんだり、針を刺して溜まったつばが流れ出すと腫れは消えますが、数日後、再び腫れてきます。治療は、のう胞だけでなく、原因となった小唾液腺を一緒にとります。



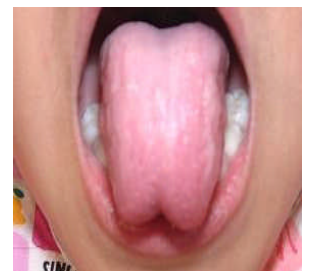
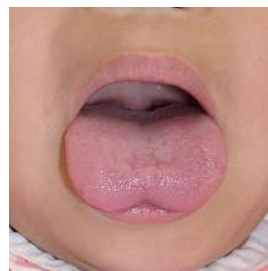
<肥大上唇小帯>



「上唇小帯」とは、上唇と歯ぐきをつないでいる「すじ」のことです。2歳未満では、この小帯（すじ）が太く、歯ぐきの頂上から前歯の間に割り込むようにまわりこんでいる場合が多くみられます。これは普通のことで、年齢とともに付着位置が歯ぐきの頂上からおりてきます。しかし、上あご前歯の永久歯が生えても、いわゆる「すきっぱ」の状態でしたら、上唇小帯の切除が適応となります。

<舌小帯短縮症>

舌の裏の真ん中と、歯肉をつなぐすじを「舌小帯」といいます。この小帯が短いことを乳幼児健診等で指摘されることがあります。しかし、舌の先が歯の生える部分を越えて前方に伸ばせるようなら特に心配はありません。舌を前方に出させた時に舌がくぼんで、ハート形になってしまうような時には、切除する必要があります。



口の中の病気って色々あるんだね。



歯磨きも
しっかりね！

